

タイトル…『ファニーたい焼きトムと栗
きんとん』

第一幕… 奇抜な挑戦

（東京都内、小さなたい焼き屋『たい焼きトム』。店の外にはカラフルな看板が目立つ。「普通のたい焼きに飽きたあなたへ！」の文字と、奇抜なたい焼きのイラストが並ぶ）

（店内。鉄板の上で、さまざまな色や形のたい焼きが焼かれている。バターの香ばしい香り、甘い餡の匂いが充満している）

トム…（ハイテンション）オーケー！今日は新作を発表するぞ！その名も『栗きんとんたい焼き』！

魚住…（不安げ）え、栗きんとん……？

トム…（ワクワクしながら）そう！日本のお正月に欠かせない、あの黄金のスイーツを、たい焼きにドッキングだ！

（トム、焼きたての栗きんとんたい焼きを持ち上げる。黄金色の生地に、トロリとした栗餡が見える。湯気が立ちのぼる）

魚住…うわぁ…確かに、見た目はキレイ。でも、これ、おいしいんですか？

トム…（自信満々）Of course！甘さの中に、ほんのり塩味！バターを加えてココをプラス！そして…

（トム、ひとくちかじる。途端に、目を輝かせる）

トム：OH！HHHH！クリーミー！スイート！リッチ！まるで高級スイーツのような深み……まさに、新時代のたい焼きだ！

魚住…（半信半疑でひとくち食べる）……
んっ！？（驚き）な、なにこれ……！

（口の中に広がる濃厚な栗の甘さ。ねっ
とりした舌触りに、バターのコクが絶妙
に絡む。生地の香ばしさが後を引く）

魚住………うまい！？

トム…（ドヤ顔）I told you！

魚住…いや、ほんとに美味しい……これ、
売れるかも！？

（トムと魚住、ハイタッチ。そこへ、最
初の客が入ってくる）

客▲…すみません、新作ってあります？

トム…（ニヤリ）待ってました！これが
新作、『栗きんとんたい焼き』です！

（客▲、ひとくち食べる。瞬間、目を見
開き、恍惚の表情に）

客A:…ん……っ！うまああああい！！！！

（店の外から、客が次々と入ってくる）

第二幕…予想外の反応

（『たい焼きトム』の前にできる長蛇の列。SNSで話題になり、テレビの取材も入る）

リポーター…今話題の『栗きんとんたい焼き』を求めて、行列ができています！お客様にインタビューしてみましよう！

客B: これまでのたい焼きの概念が崩れる……！！

客C: 甘さとバター of 塩気が絶妙！これは革命です！

（魚住、必死にたい焼きを焼く）

魚住…こんな予想してなかったですよ！？もう材料が足りません！

トム：Ha-ha-ha「うれしい悲鳴だな！よし、追加分を仕込もう！」

（しかし、ここで問題が発生。予想以上の売れ行きにより、材料が底をついてしまう）

魚住…やばいです…：栗きんとんの餡が、もうありません！

トム：What!?! Noooooo!!

（トム、悩んだ末に店の奥から秘密の食材を取り出す）

魚住…えっ、それは…：！？

トム…ふふふ、これが僕の秘密兵器…：『特製マロンバタークリーム』だ！

魚住…えええ！？たい焼きにクリームを！？

トム…いいか、魚住。僕たちはいつだつて挑戦者だ！さあ、試してみよう！

（新バージョンのたい焼きを焼き上げ、客に提供する）

客D…んっ！？なにこれ……！

（口の中で広がる、なめらかでコクのあ
るマロンバタークリーム。栗の濃厚な風
味が、一層リッチに感じられる）

客B…やばい……こっちの方がさらに美
味しい……！

（店内、大歓声）

魚住…（驚き）すごい……！

トム：Ha-ha-ha！「ファニー」たい焼きの進化
は止まらないぜ！

（その様子を、冷たく見つめる謎の男の
影……）

第三幕.. 予期せぬ爆売れ

(ニュースでの報道後、店の前にはさらなる大行列。芸能人やフードブロガーも押し寄せ、話題がさらに加熱する)

(たい焼きトムの店内。朝からフル稼働でたい焼きを焼くトムと魚住。鉄板の上でぶくぶくと膨らむたい焼きたち。甘い香りが漂う)

魚住.. もう無理ですって！こんなに焼いたのに、またすぐなくなっちゃう！

トム.. (汗だくになりながらも笑顔)

Ha-ha-ha! 最高じゃないか、魚住！これぞファニーたい焼きの力！

(行列の中にはテレビカメラ、リポーター、そして大物フードブロガーの姿も)

リポーター… 皆さん、今話題の『たい焼きトム』に並んでいます。ですが、どんな味を期待していますか？

客A: 前に食べたピーナッツバターと漬物たい焼きが意外とおいしくて！今回の栗きんとん、絶対試したい！

客B: 甘じょっぱい系がクセになって、気づいたら並んでるんですよ〜。

(ひとくち食べた客のリアクションが映る。目を見開き、次の瞬間恍惚の表情に)

客C: ふわあああ…！なんですか、この、ねっとり濃厚な栗の甘さ！バターの香ばしさが鼻に抜けて…！幸せ…！。

客D: え、ちょっと待って、これ、食べ終わるのが怖い…！ずっと味わってた
い…！

（次々と絶賛の声が上がるが、そんな中、不穏な影が店の前に立つ）

鬼丸…フン…：…くだらんな。

（トムと魚住、気づかず忙しくたい焼きを焼き続ける）

魚住…（小声で）トムさん、なんか…：

ヤバそうな人が…：

トム…ん？（鬼丸に気づく）おお、スーツ姿でたい焼き屋に来るとは、ビジネスパーソンかな？

鬼丸…（冷笑）貴様が、くだらない奇抜なたい焼きを広めている男か。

（周囲の客たちもざわめく）

魚住…（小声で）なんか、めっちゃ敵意

感じるんですけど！？

トム…（腕を組む）Oh-ho！君は……敵か？
ライバルか？それとも、ただのヘイタ
ー？

鬼丸…ふん。貴様のふざけたたい焼きが、
和菓子の伝統を汚している。私が正しい
たい焼きの姿を見せてやる。

（鬼丸が持っていた箱を開ける。中には
極上のたい焼きが並んでいる。生地は薄
く、パリッと焼かれ、控えめな甘さの粒
あんが上品な香りを放つ）

魚住…（ゴクリ）……めちやくちや、お
いしそう……。

トム…（真剣な表情）Hum……面白い。
じゃあ、やるしかないな。たい焼きバト
ル、開催決定だ！

（群衆が盛り上がる）

客…うおお！たい焼き対決だって！？

リポーター…これは見逃せませんね！

（トムと鬼丸、激しい視線を交わしながら、対決の幕が上がる……！）

第四幕…最大の危機

場面…ライバル店の襲来（『たい焼き
トム』の隣に、新たな店がオープン。そ
の名も『和風スイーツ龍』）

魚住…（驚き）ちよつと…こんな近くに、
まさかのライバル店！？

トム…（目を細める）Hmm…なにやら、
不穏な空気を感じるな。

（『和風スイーツ龍』の店主、鬼丸が現
れる。スーツ姿で鋭い目つきの男）

鬼丸…（冷笑）貴様が、話題のトムか。

トム…（胸を張る）Oh yeah！そして君が、
僕の新しいチャレンジャーだね！

鬼丸…くだらんフレーバーで騒ぐのは今日で終わりだ。和菓子は伝統が命：それを冒瀆するような存在は消えてもらう。

魚住…（動揺）え、ええ！？

（鬼丸の店では、「極上たい焼き」なるものを売り出していた。粒あんの上品な甘さに、高級バターを合わせた贅沢な一品）

客♀… えっ…めっちゃ美味しい！

客♂… これは本物のたい焼きだ…！

（客足が『和風スイーツ 龍』へ流れてしまおう）

トム…（悔しそうに）くそお…やるな、
鬼丸！

魚住…（焦る）どうしましょう！？

トム…（にやりと笑い）…やるしかない
だろう、新作で勝負だ！

第五幕…最後の勝負

場面…究極のたい焼き開発

（トムは徹夜で試作を続ける。生地、具材、焼き加減…すべてのバランスを完璧に調整する）

魚住…（半分寝ながら）…いったい、何を作るんですか。

トム…（目を輝かせ）最強のたい焼き、その名も…『プレミアム栗きんとんバターたい焼き』！

（栗きんとんに、高級フランス産バターと、秘伝のカラメルソースを加えた特別

仕様。口に入れた瞬間、濃厚な甘さと香ばしさが広がる)

魚住… (試食) ……なにこれ……天才!?

(そして、決戦の日が訪れる)

場面♪ ラストバトル! たい焼き対決!

(『たい焼きトム』vs『和風スイーツ 龍』の直接対決。審査員は町の人々)

(鬼丸の「極上たい焼き」は、品のある甘さと伝統を重視した逸品)

(対するトムの「プレミアム栗きんとんバターたい焼き」は、甘さの中に深いコクと香ばしさがあり、食べた瞬間に幸せが広がる)

(客たちの反応が分かれる中、ついに投票の時)

司会者… 勝者は… 『たい焼きトム』!!

（大歓声が沸き起こる！）

鬼丸…（呆然）バ…バカな…！

トム…（拳を突き上げ）Yes! This is フ

アニー！たい焼きパワーだ！！

（鬼丸は悔しそうに店を畳む。一方、『たい焼きトム』はさらなる人気を博し、新たな挑戦へと続く…）

終幕